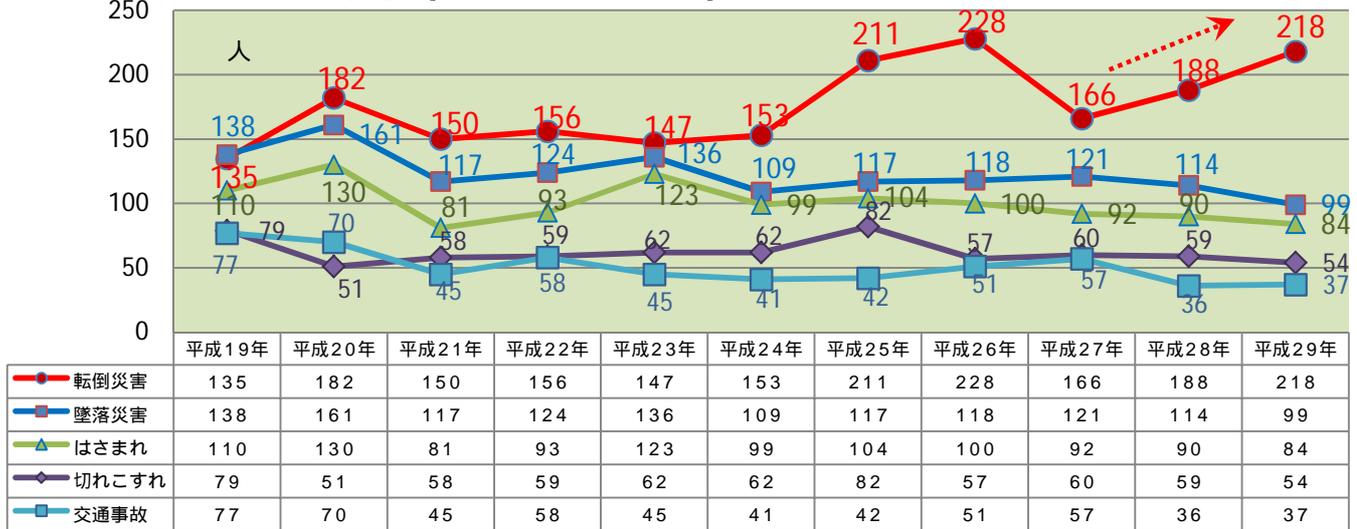


山梨県内における「転倒災害」の現状

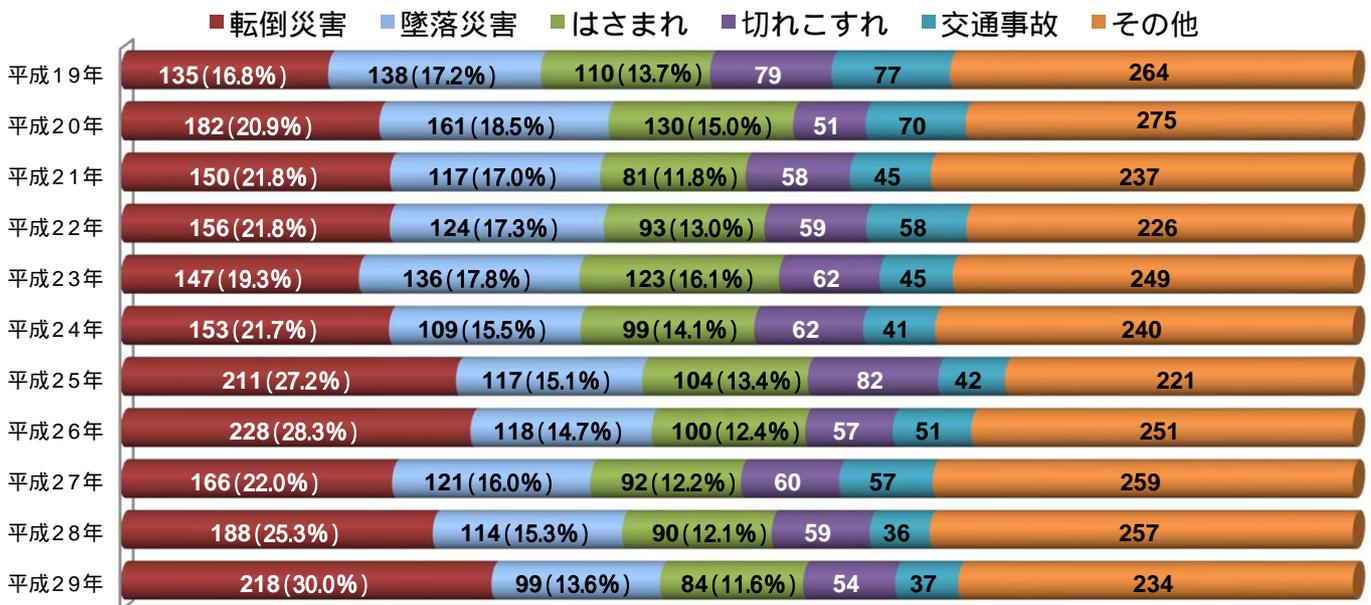
山梨労働局

1 主な事故の型の発生推移（平成19年～29年）



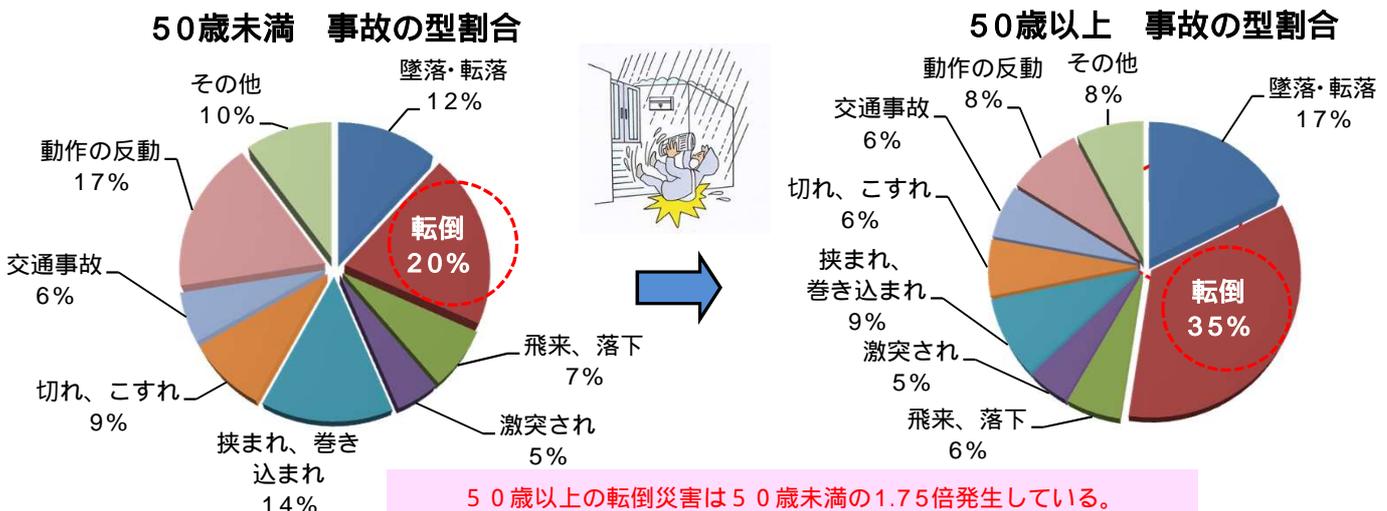
平成19年までは「墜落」災害がトップであったが、平成20年以降は「転倒」災害が常にトップに！ 墜落・転落や
はさまれ災害は減少傾向！

2 主な労災事故の型 発生割合（平成19年～29年）



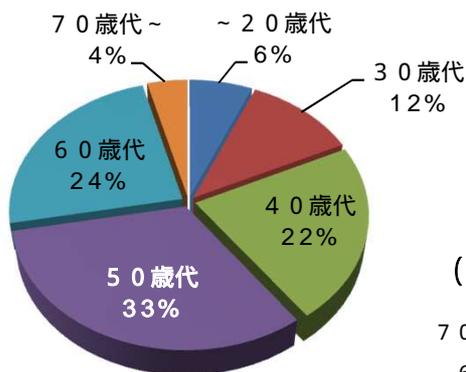
平成20年に全体の2割を超え、増加傾向が続いたため、平成27年に「STOP！転倒災害プロジェクト2015」に
取り組んだ結果、減少したものの、平成28年以降増加に転じ、平成29年はの発生割合は30%と過去最高となった。

3 労災事故の型別・年代別発生割合（平成27年～29年（2,225人の内訳））



4 平成29年 転倒災害の年齢別発生状況

(1) 転倒災害の年齢別割合

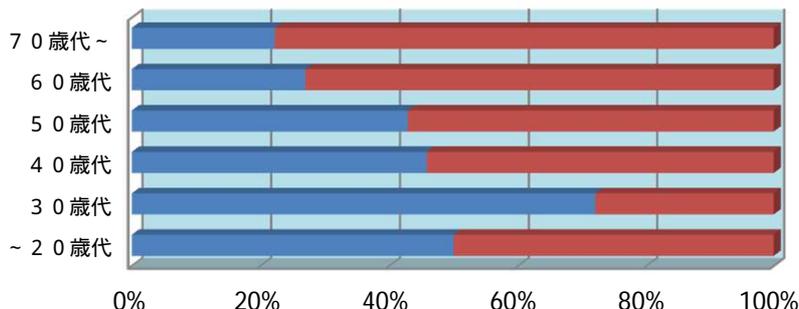


転倒災害の6割以上が
50歳以上の高齢労働者！



- (1) 平成29年の転倒災害の218人の被災者を年齢別にみると、50歳代が最も多く33%を占め、次いで60歳代の24%、40歳代の22%の順となっている。転倒により被災する方の6割以上が50歳以上の高齢労働者となっている！
- (2) 高齢労働者になるほど、女性労働者の割合が増加している。

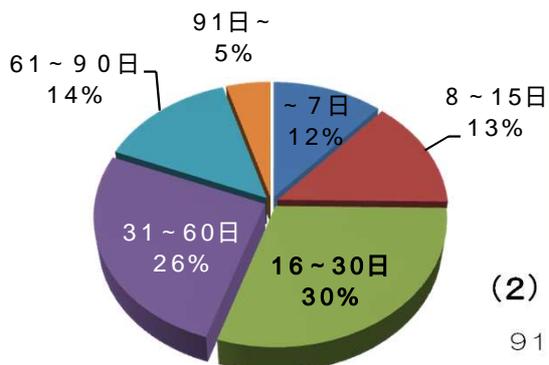
(2) 転倒災害の男女別発生割合



	～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～
■男	7	18	22	30	14	2人
■女	7	7	26	40	38	7

5 平成29年 転倒災害の休業日数別発生状況

(1) 休業日数別割合

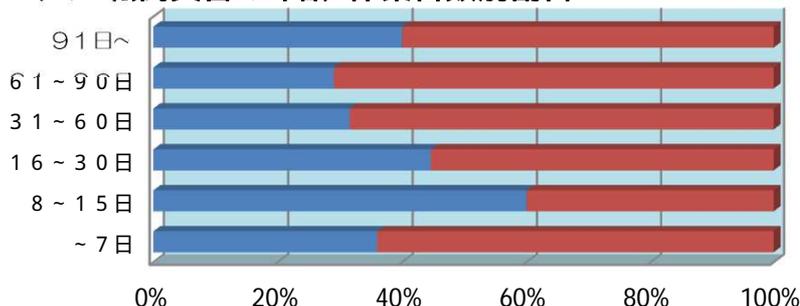


転倒災害が発生すると
3割以上の方が
休業1ヶ月を超えている！



- (1) 平成29年の転倒災害の218人の被災者を休業日数別にみると、16～30日が最も多く30%、次いで31～60日の26%、61～90日の14%の順となっている。転ぶという単純な災害でも、ひとたび発生すると45%の方が1ヶ月を超える休業災害となっている！
- (2) 休業日数ながい災害ほど高齢労働者の占める割合が高くなる傾向にあり、重篤な災害に直結する可能性が大きいといえる。

(2) 転倒災害の年齢・休業日数別割合



	～7日	8～15日	16～30日	31～60日	61～90日	91日～
■50歳未満	9	18	29	18	9	4
■50歳以上	16	12	36	39	22	6人

全国、山梨県においても仕事に転倒して被災する労働者は労働災害の種類で最も多くなっており、平成29年には山梨県内における休業4日以上労働災害の3割を占めています。特に高齢労働者が転倒した場合は重症化する割合が高くなっています。

転倒災害はどのような職場でも発生する可能性があるため、事業主、働く全ての人が常に問題意識を持ち、防止対策に取り組むことが重要です。

厚生労働省では「STOP! 転倒災害プロジェクト」を展開中です！

[厚生労働省 ホームページ] 「STOP! 転倒災害プロジェクト」で検索！！